

願ひ申し上げ日、草々、

用語解釋

住所

○失念

○搜索

○發見

○困

却る

○御交際

○相違

○御報知

○人の滞在時間問合せの文

今度大坂より上京いたし候浪花香之助君は、貴館に宿泊いたし居り候由、是非面會の上、相談いたし度、ここ之れあり候間、同氏滞在の日限及び、在宿の間御通知下され度、往復端書をもつて御照會申上げ候也、

用語解釋

上京

○貴館

○宿泊

○是非

○

○

○

面會

○滞在

○日限

○在宿

○御通知

○御

○人の轉居先問合せの文

櫻間光風君は、何れへ移轉いたし候哉、大至急協議を遂げたきこと之れあり、文通致し候へ共、移轉先不明の附箋つき、逆戻りいたし候、雅兄は同君とは、深き御關係之れあり候様に存じ居り候へば、必らず御承知のことなるべしと信じ、御照會申上げ候次第に候、匆々、

用語解釋

移轉

○大至急

○協議

○文通

○

○

○

○不明  
○附箋  
○雅兄  
○御關係  
○御照會

○發足日限問合せの文

豫ねて御約束いたし居り候朝鮮行の件、最早時節もよろしく相成り候へば、發足いたしたく、御都合如何に候や、旅装の準備の都合も御坐候へば、御出發の時日御報相成りたく、是の段御照會申し上げ候、頓首、

用語解釋

○出發  
○照會

豫ねて、○發足、○旅装、○準備

○汽船の出帆を問合せする文

北米「サンフランシスコ」への通船は、何日頃出帆いたし候や、「バンクバー」へ直航するものにて、も宜しく候間、横濱より出帆すべきもの、船名、時日御通知下されたく、右御照會申し上げ候、以上、

用語解釋

○御通知

通船、○出帆、○直航、○船名

○米作の景況問合せの文

本年は、非常なる雨天つゞきにて、米作に餘程影響を及ぼし候やうに、言ひふらし居り候が、果して眞實のことに候や、御地方の米作は、如何なる有様を

呈し居り候や、御手数ながら、御報に預かりたく候、  
先は右御照會まで、匆々不<sub>レ</sub>一<sub>レ</sub>、

用語解釋

非常 非常な事  
○雨天 雨の天  
○米作 米の作  
○影響 影響

○眞實 眞實  
○御地方 御地方

○送金の着否問合せの文

御來命に任せ、過日金何十圓郵便爲替にて送り上げ  
候ところ、今以て何等の御報知之れなく、萬一不着  
の事之れあり候ては、相濟まざる儀につき、右伺ひ  
上げ候、頓首、  
二白、御返事は、郵便局へ掛合の都合もこれあり候

へば、直ぐ願ひ上げ候、敬白、

用語解釋

御來命 御來命  
○萬一不着 萬一不着  
○掛合 掛合

○賣地の有無問合はせる文

老父退隱いたしたしこて、目下適當の地所詮索いた  
し居り候へ共、何分にも見當り申さず、困却仕り居  
り候、御宅近所は、高燥の土地にもあり、又眺望も  
よろしきところにて、至極適當の場所と存じ候が、  
然るべき賣地之れなく候や、若し之れあり候はゞ、  
直ぐ買受け申し度候、有無御報道下され度、此の段  
願ひ上げ奉つり候、匆々、

用語解釋

- 詮索 せんさく
- 困却 こんけつ
- 高燥 かうそう
- 眺望 てうたう
- 至極 しごく
- 退隱 たいいん
- 目下 もくげ
- 適當 とうたう
- 老父 らうふ
- 御報道 ごほうどう
- 有無 ありなし

○ 賣家の有無問ひ合せの文

小生親戚の者、此度日本橋の大通りへ、商店相開ら  
きたき由、申し参り候につき、適當の家屋買ひ入れ  
度、彼是自身奔走いたし候へ共、未だ見當り申さず、  
若し貴所御近邊に之れあり候はゞ、坪數、代價、地  
代等御報下されたく、至急を要する件に付、右御伺  
ひ申し上げ候、草々不一、

用語解釋

- 家屋 けあや
- 自身 じしん
- 奔走 ほんそう
- 貴所 かいじょ
- 御近邊 ごきんぺん
- 坪數 へいすう
- 代價 だいげ
- 地代 ぢだい
- 至急 しきゅう
- 小生 せうせい
- 親戚 しんせき
- 商店 せうてん
- 適當 とうたう

○ 書籍の有無問合せの文

古今賣藥沿革史、出版相成り居り候趣き、人傳に承  
はり候へ共、未だ親しく其の書を見申さず、貴店に  
ては、醫藥に關する書籍御出版の由に候が、右の書  
藉御賣捌きなされ候や、若し御販賣に候はゞ、代價  
何程に候や、御通報に預かりたく候、不一、

用語解釋

- 貴店 かいてん
- 醫藥 いやく
- 御販賣 ごはんばい
- 代價 だいげ

○御通報 ごつうほう 知らせる

○書畫の有無問合せの文 しよがわのうむごひあはせのぶん

應舉筆密山水、竹田筆人物、山陽筆書、全紙大幅、  
右三品、大至急買入れ申したく、代價は別に厭ひ  
申さず候間、眞蹟のもの之れなく候や、伺ひ上げ候  
頓首、

用語解釋

應舉 おうえきよ 竹田 たけでん 山陽 さんやう 全紙大幅 せんしだいふく

○眞蹟 しんせき 本物のもの

○工場縦覧の許否問合せの文 こうじょうじゆうらんのきよひごごひあはせのぶん

過日願ひ上げ候貴工場内閲覧の儀、明日参場致させ

候て宜しく候や、伺ひ上げ候、最も参上致し候人員  
は、大凡百五十名位に候、頓首、

用語解釋

過日 くわじつ 貴工場内 きこうじょうない 閲覧 らんらん 参場 さんじやう  
人員 じんいん 大凡 おほよそ

○談話會開會の時間問合せの文 だんわかいかいのじかんごひあはせのぶん

今日開會の談話會は、午後何時より始まり申し候や、  
御知らせ下され度候、以上、

用語解釋

開會 かいかい 談話會 だんわかい

招聘門

此の文章は、往復文の方である、口上文ではない、だから成るべく細密に書き、認めればならぬものじや、むかしの人の書いた文章を見れば、随分丁寧に書いてある、決して今の人のかきやうな、ぞんざい千万なものはない、手紙は自分のこころを人に見せるのであるから、成るべくは禮にあたるやうにかきたきものである、

○新年宴會に人を招く文

本日は、我等文士の例年開き來れる新年宴會の日に候、由つて例年の例にならひ、百尺樓上に於いて、賀杯を擧ぐるこゝろ相成り候間、萬障御差繰の上、御貴臨相成りたく候、匆々、

用語解釋

文士 ぶんし 例年 れねん 例 たい 賀杯 がいはい

○萬障 ばんしやう 御貴臨 ぎきりん 百尺 ひやくせき

○紀元節に人を招く文

本日は、日本國民たるもの、大いに賀すべき日柄に候、何故さなれば、我が大日本帝國の、此の世界に生れ出でたる日なるをもつての故に候、依つて知己朋友共を招きて、今日の祝日を大いに祝すること、致し候、大兄も斯の如きことには、人後に落ちざる方に付、是非御尊來を乞ふこゝろ相成り申し候、不一、

用語解釋

國民 國民の ○知己 知ることし ○朋友 友なり ○祝日 祝ひの日

○大兄 大いなる兄 ○人後 人の後 ○御尊來 御尊來りて

○雨中人を招ぐ文

連日の霖雨には、お互いに困り果て申し候、併し困り果たご云ふて、婦女子のやうにくよくよするも、男子の耻づべきところに候へば、宇治より到來の玉露を煎じ、談笑して此の無聊を消し申したく、御閑暇に候はゞ、御貴臨の程祈り奉つり候、頓首、

用語解釋

談笑 談話をし笑ふこと

連日 連日 ○霖雨 霖雨 ○到來 到來 ○玉露 玉露 ○無聊 無聊 ○御閑暇 御閑暇 ○御貴臨 御貴臨

○月見に招ぐ文

今宵の月は、一年に一度しか見るここの出來ぬ名月に候、弊樓は決して眺望のよろしきところには之れなく候も、唯月を見るに於いてのみ、他に勝れて居るやうに思はれ候、別に何にも御馳走申し上げず候へ共、夕刻より御枉車下されたく、待入り奉つり候、匆々不備、

用語解釋

御馳走 御馳走

今宵 今宵 ○名月 名月 ○弊樓 弊樓 ○眺望 眺望 ○御枉車 御枉車

○全じく返事

平野の間に屹然と峙てる貴邸のここに候へば、かねてより月の夜、雪の辰のけしき、嘸かしと羨望まかり在り候ところへ、今宵の御招待に預かり、實に天へも登る心地と相成り申し候、必らず参上の上、飽きるまで味ひ申すべく候、拜復、

用語解釋

平野 へいや たるのほら  
〇屹然 ぎつぜん してゐる  
〇貴邸 きたてい しかる  
〇羨望 せんぼう みる

〇御招待 ぎよせうたい せま  
〇参上 さんじやう する

〇蓮見に人を招く文

園内の小池に栽えつけ置き候蓮花、昨今に至り咲き初め候間、池亭に於いて觀蓮の小宴相開らさたく、

何卒黎明より御枉車成し下され候様、千祈萬禱の至りに耐へず候、勿々、

用語解釋

園内 うえのち  
〇小池 せうち せうち  
〇蓮花 れんげ げんげ  
〇池亭 ちてい ちてい  
〇千祈 せんき せんき

〇觀蓮 ぐわんれん みる  
〇小宴 せうえん せうえん  
〇黎明 らいめい らいめい  
〇御枉車 ぎよわうしや せま  
〇千祈 せんき せんき

萬禱 ばんたう ばんたう  
ばんたうのり

〇菊見に人を招く文

後庭の菊花霜に傲り候状、如何にも可憐に候ゆゑ、小宴を開きて詩酒に情を述べ、聊か其の節操を褒めてやりたく、御閑暇に候はゞ、午後より御來會下されたく、會する人は、詩人と酒客のみに候、勿々、



用語解釋

後庭

○可憐

○小宴

○詩酒

○詩人

○節操

○御閑暇

○御來會

○詩人

○酒客

○狂詩

○一句

○愉快

○參邸

○全じく返事

愉快なる御催し遊ばされ候て、菊のみさほを慰さめられ候由、何たるやさしき御催しに候ぞや、早速參邸御席に列なり、狂詩の一句も絞り出し可申候、拜復、

用語解釋

愉快

○菊のみさほ

○參邸

○一句

○狂詩

○雪見に入を招く文

昨日來の降雪にて、山莊四邊の景色、得も言はれぬと、番人の野叟より報知之れあり候につき、今朝より出かくることに致し候、來會する方々五六人も之れあるべく存じ候間、詞兄も何卒御枉駕下されたく、ころびつ、雪を侵して進み候も、面白きことなるべしと存じ候、頓首、

用語解釋

昨日來

○降雪

○山莊

○野叟

○詞兄

○存じ候

○報知

○來會

○詞兄

○枉駕

○ころびつ

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

立寄

○全じく返事

雪月花は酒よりも飯よりも好物なることは、かねて御承知の通りに候、今日の御招ぎに預り、矢も盾もたまらぬ云ふ狂体、御汲察下されたたく候、下駄が切れ候は、裸足にても參上いたし申すべく候、勿々、

用語解釋

雪月花 せつげつくわ

御汲察 ごきくさつ

好物 かうぶつ

御承知 ごせうち

狂 けい

○壽宴に人を招ぐ文

老父今年古稀の齒に達し候につき、今晚心ばかりの

賀宴相開らさ候間、別に御口にかなひ候様の珍味も之れなく候へ共、日没頃より御光來下され度、待ち入り奉つり候、草々頓首、

用語解釋

老父 らうふ

古稀 こせき

賀宴 がえん

珍味 ちんみ

日没頃 にちぼつころ

御光來 ごくわらい

壽宴 じゆえん

頓首 とんすう

○七夜に人を招ぐ文

豚兒出産の折は、早速御祝ひ下され、有りがたく謝し奉つり候、借明日は七夜に相當り候へば、心ばかりの小宴相開き候間、午後一時頃より御來車下され度、待ち入り奉つり候、勿々、

用語解釋

御來車 ごらいしゃ

豚見 ぶたみ ○出産 しゅつぷあん ○七夜 しちや ○小宴 せうえん

○開業祝に人を招く文

御勸めに由り、先頃より取りかゝり居り候普請も、  
いよく落成いたし候につき、今日より開業仕り候、  
右につき、心ばかりの祝宴相開き候間、何の風情も  
之れなく候へ共、夕刻より御尊來下されたく候、匆々

用語解釋

落成 らくせい ○開業 かいげふ ○祝宴 しゆゑん ○何の風情 なんのふうせい  
夕刻 ゆふく ○御尊來 ごそんらい

○醫師を招く文

老祖母 らうそぼ こと、先日來風邪の氣味とて、臥床いたし候  
ところ、今日に至り候も、其のまゝ全快の模様なく  
如何にも痛心至極に候間、御廻診の折を以つて、御  
立寄り下され度候、何を申すも年の上のここに候へ  
ば、痛心まかり在り候、先づは右御願ひまで、匆々

用語解釋

老祖母 らうそぼ ○先日来 せんじつらい ○風邪 ふうじゃ ○臥床 ふしど  
全快 ぜんかい ○模様 ようよう ○痛心 つうしん ○至極 しごく ○廻診 くわいしん

○全快祝に人を招く文

野生病氣中は、時々御見舞下され謝し奉つり候、た

蔭をもつて、積年の痼疾も根治いたし、安心仕り候、右につき、本日をもつて全快祝の小宴相開き候間、夕刻より御來會成し下され度、待ち入り奉つり候、匆々、

用語解釋

- 野生 やせい
- 病氣中 びやうきちゆう
- 積年 せきねん
- 痼疾 こじつ
- 根治 こんじ
- 安心 あんしん
- 全快祝 ぜんくわいしゆ
- 小宴 せうえん
- 御會來 ごくわい

○安着祝に人を招く文

地方商業視察のため、長らく旅行まかり在り候ところ、昨夜無事安着いたし候間、御安心下されたく候、

右につき、今晚安着祝の小宴相開き候につき、御多忙中恐れ入り候へ共、御枉車下され度、待ち入り奉つり候、不備、

用語解釋

- 地方商業 ちほうしょうぎや
- 視察 しさつ
- 旅行 りょこう
- 無事 むじ
- 安着 あんちやく
- 小宴 せうえん
- 多忙 たひやう
- 枉車 わうしや

○豊作祝に人を招く文

本年は長々の雨の爲め、不作と覺悟いたし居り候ところ、八朔後の天氣順に復し、思ひの外なる豊作と相成り候につき、親近せる人々を相會し、祝宴相開き候間、萬障御くり合せ下され候て、御尊來成し

下されたく、待ち入り申し候、匆々、

用語解釋

- 〇不作 こころもつが
- 〇覺悟 かくご
- 〇八朔後 はつごご 八月一日
- 〇順 じゆん
- に復し もとほりかへる
- 〇豊作 はらうさく
- 〇親近 しんじん
- 〇祝宴 しゅくゑん
- 〇萬障 ばんざう
- 〇御尊來 ごんそんらい

〇書畫會に人を招く文

今回白馬會の先生方、遊歴のため當地に御滞在爲し居られ候を幸機に致し、當町の某大寺に於いて、書畫會開會いたし候間、御閑暇に御坐候はゞ、明日の午前十時より御來會成し下されたく、此段御案内申し上げ候、匆々、

用語解釋

- 白馬會 はくばくかい
- 〇遊歴 ゆうれき
- 〇當地 たうち
- 〇滞在 たいざい
- 〇幸機 かうき
- 〇大寺 たいじ
- 〇閑暇 かんげあ
- 〇來會 らいかい
- 〇案内 あんない

〇祭祀に人を招く文

來る何日は、我が先祖の第何十回の祭祀につき、祭典執行いたし候間、酷暑にて御迷惑さは存じ候へ共、御繰合はせ御尊來下されたく、待ち入り奉つり候、匆々、

用語解釋

- 祭祀 さいし
- 〇祭典 さいてん
- 〇執行 しつぎやう
- 〇酷暑 こくしやう
- 〇迷惑 めいわく
- 〇尊來 そんらい

謝禮門

此の文章も大抵は口上文である故に簡短にして明瞭なることを貴とて、決して入らぬ冗句を用いて長たらく書いてはならぬ。兎もすれば初心中は、入らぬ文句を入れて長くしたがつてならぬものじやつしむべきことである。

○饗應を謝する文

昨夜は、御丁寧なる御饗應に預かり、殊に趣味深き「バイチリン」の合奏を拜聴いたし、近頃になき歡樂を極め申し候、覺えず頂戴いたし候見え。酩酊いたし候こと甚たしく、實以て驚き申し候、何づれ參

邸の上御禮申し上げ候へ共、取敢へず尺素を以つて御禮仕り候、匆々、

用語解釋

- 御丁寧ごていねい ○饗應けいおう ○趣味しゆみ ○合奏がっそう
- 拜聴はいてう ○頂戴てうたい ○歡樂くわんらく ○酩酊めいてい ○參邸さんてい
- 尺素せきそ ○新茶しんちや

○新茶を贈らるゝを謝する文

御手製の新茶と仰せられ、數斤御惠贈に預り、厚く御禮申し上げ候、かほりもよく、味ひも高尚にて、御手際の程、唯々感服仕り候、年一年に、美事なる品御こしらへ遊ばされ候やうに成せられ候は、御浦

山しき至りに候、先は御禮申し上げ候まで、匆々不備、

用語解釋

手製 手製のてづか ○數斤 数斤のりく ○惠贈 恵贈のりく ○高尙 高尙のりく

○感服 感服のりく ○一年 一年のりく ○見事なる品 見事なる品のりく

○土産物を贈り呉れしを謝する文

昨日無事御返宅なされ候由にて、種々なる御土産物贈り下され、御禮申し上げ候詞も之れなく候、早速昇堂御厚禮申し上ぐべき筈の處、彼是取り紛れ、延引いたし、萬謝奉つり候、先は御禮申し上げ候まで草々、

用語解釋

無事 無事のりく ○御歸宅 御歸宅のりく ○昇堂 昇堂のりく ○御厚禮 御厚禮のりく

○延引 延引のりく ○萬謝 萬謝のりく

○忘れ物を送り呉れしを謝する文

昨夜は長坐泥酔いたし、如何にして歸宅仕り候やも覺え申さず候次第、今朝紙入御届けに預かり、始めて失念いたし候ことを相悟り申し候、實に赤面の外之れなく、萬謝此の事に候、先は御禮申し上げ度、此の如くに候、草々

用語解釋

長座 長座のりく ○泥酔 泥酔のりく ○歸宅 歸宅のりく ○失念 失念のりく ○

赤面 赤面のりく ○萬謝 萬謝のりく

○滞在中世話になりしを謝する文

其の御地に滞在まかり在り候節は、何かと御世話にあづかり、お影を以つて、他郷にあるを忘れ候やうにて、萬事都合よく相運び、感謝の至りに耐へず候本日道中無事、安着いたし候間、御安心下され度候先は滞在中御世話にあづかり候御禮かたく、無事歸郷御報道まで、寸楮捧呈いたし候、頓首、

用語解釋

滞在中 滞在 〇他郷 〇萬事 〇感謝 〇寸楮

道中無事 〇安着 〇歸郷 〇報道 〇寸楮

捧呈

○留守中世話になりしを謝する文

野生旅行不在中は、一方ならず御世話にあづかり候由、御厚情の段、深く感銘奉つり候、早速參邸御厚禮申し上げべき筈のところ、何分長途の疲れにて、外出いたし難く候間、取りあへず書面を以つて御禮申し上げ候、何れ近日の中、參堂仕り候て、旅中の珍談異説御聞に入れ申すべく候、匆々、

用語解釋

野生 〇旅行 〇不在中 〇厚情

〇感銘 〇參邸 〇厚禮 〇長途 〇外出

〇書面 〇近日 〇參堂 〇旅中 〇珍談



○異説 ひたひた 一方ならず すのこころ

○病中見舞を受けしを謝する文

小生病中臥寢中は、たびく御見舞下され候のみならず、御看護さへ下され、御厚志の段、たびく御厚禮申し上ぐるのみに候、お蔭さまにて、さしもの重患も、日増快方に向ひ、昨今のありさまにては、日ならず全快致すべしとのことに候間、餘事ながら御安意に預かりたく候、先は御芳志御厚禮申し上げ候まを斯の如くに御坐候、匆々、  
白、来る何日を期し、床上祝ひ仕り候間、其の

節は何卒御光來下され度候、敬白、

用語解釋

小生

○臥寢中

○看護

○厚禮

○重患

○快方

○餘事

○安意

○芳志

○器物を借りたる禮状

昨夜は思はざる大客のため、器物に不足を告げ、困難まかり在り候折柄、御大切なる御品物拜借仕り、お蔭をもつて、諸事手支へなく相濟み申し候、實は御承知の如き邊鄙の地にて、不時の來客には、閉口いたし候こと鮮がらず候、今回は十人以上の大客ゆゑ、實以て一時は途方に暮れ申し候、何れ不日參

堂御禮申し上ぐべく候へ共、取り敢へず書面にて、御厚禮申し上げ置き候、頓首、

用語解釋

- 大客 おほきやく
- 器物 うつは
- 不足 ふそく
- 困難 こんなん
- 拜借 はいしやく
- 諸事 しよじ
- 邊鄙 へんび
- 不時 ふじ
- 來客 らいきゃく
- 閑 ひま
- 口 くち
- 今回 こんかい
- 途方に暮れ とほうに暮れ
- 不日參堂 ふじつさんどう
- 厚禮 こうらい

○書籍を借りし禮状

此度は、御秘藏の本朝軍器考、軍用記、武器考証拜借仕つり、御蔭を以て、刀劍、甲冑、弓矢等の取り調へ相附き萬謝此の事に候、此等拜借の書籍は、當

時坊間に販ぎ居り候品なく、若し之れを見やうと致し候には、帝國圖書館にでも参り候より外、致し方なく、實に不便申すばかり之れなく候、然るに御秘藏の品にて、間に合ひ候段、御禮の申し上げやうも之れなく候、何れ参邸の上御禮申し上ぐべく候へ共、取りあへず御禮状まで、斯くの如くに御坐候、草々頓首、

用語解釋

- 秘藏 ひさう
- 本朝軍器考 ほんていぐんぎかう
- 武器考證 ぶきかうしやう
- 刀劍 たうけん
- 軍用記 ぐんようき
- 甲冑 かうきゆう
- 弓矢 きゆうし
- 萬謝 まんしや
- 拜借 はいしやく
- 坊間 ぼうかん

不便ふべん ○參邸さんてい ○禮狀れいじやう

○雨具を借りし禮狀

一昨日は途中にて、俄か雨に遇ひ、狼狽を極め居り候折柄、御大切なる洋傘を御惠借にあづかり、お陰をもつて途中無事歸宅仕り候、御品は物品配達會社へ依頼いたし、御返納仕り候間、御落掌下されたく候、何づれ拜眉の上御禮申し上げべく候へども、取りあへず紙面をもつて御厚禮申し述べ候、謹言

用語解釋

途中 ○狼狽 ○大切 ○惠借 ○無事歸宅 ○依頼 ○返納 ○落掌 ○拜眉

○近火見舞を受けし禮狀

昨夜近火の節は、早速御見舞下され、御芳志の段、有りがたく御禮申し上げ候、取り込み中にて、自然御無禮等いたしたるやも計りがたく候間、其邊は幾重にもお詫仕り候、未だ荷物取片付中にて、混雑を極め居り候へば、略儀ながら書面をもつて御禮申し上げ候、早々不

用語解釋

昨夜 ○近火 ○芳志 ○自然 ○無禮 ○混雑 ○略儀 ○書面

○危難を救はれし禮狀

豚兒とんじこご、蜻蛉とんぼ取りに夢中むちゆうに相成あいなり、自みづから丸まるの内うちの御堀ごほりに飛とび込こみ候節さつは、洋服やうふくのまゝ御飛ごとび込こみに相成あいなり、御救助ごきゆうすけ下くだされ候趣おぼき、實じつに御身ごみ柄がらをも御厭ごいとひ之これれなく、御救ごきゆうすけひ上あげ下くだされ候上うへ、宅たくまで御送ごおくり下くだされ候段だん、實じつ以もつて御禮ごらいの申まうし上あげやうも之これれなく候、早速さつそく御禮ごらいに參上さんじやう致いたすべき筈はずに候へごも、彼かれ是こゝ手當てあて等どういたし候爲ためめ、延引えんいん仕しり候に付つき、取とり敢あへず紙面しめんを以もつて御禮ごらい申まうし上あげ置おき候、敬具けいぐ。

用語解釋

- 豚兒とんじ ねが
- 夢中むちゆう むかひうちちたはるあやうに
- 洋服やうふく せいふく
- 敬具けいぐ けいぐ
- 助すけ すくはた
- 早速さつそく さつそく
- 參上さんじやう まゐりあが
- 延引えんいん ひんげん
- 紙面しめん かみめん
- 救きゆう きゆう

嚮導者への禮狀

昨日きのうは御繁忙ごはんぼうじゆう中の御身ごみも厭いとせられず、彼地あつち此地こゝご御案内ごあんない下くだされ、御陰ごかげを以もつて、残のこらず拜觀はいくわん仕しり候、歸郷ききやうの上うへ、家内かない共どもも相談あひだんいたし候て十分じふぶんなる御禮ごらい仕しり候心底こんていに候へ共、取敢とりあへず尺楮せきぢゆを以もつて御禮ごらい申まうし上あげ置おき候、匆々さうさう

用語解釋

- 繁忙中はんぼうじゆう はんぼうじゆう
- 案内あんない あんない
- 拜觀はいくわん おがみ
- 歸郷の上ききやうのうへ ききやうのうへ
- 家内共かないども かないども
- 相談さうだん ひさな
- 十分じふぶん じふぶん
- 心底こんてい こんてい
- 尺楮せきぢゆ せきぢゆ
- 楮ぢゆ ぢゆ

○金子きんすを借かり受うけし禮狀らいせう

過日歸國に際し、如何なる間違ひに候やらん、國許  
よりの送金到着いたさず、歸郷の期に迫り詮方なき  
所より、平生の御高誼に甘え、旅費拜借を願ひ出で  
御蔭を以て無事歸村仕り候、承はり候へば、郵便局  
内に賊之れあり、爲替金を横取りいたし候由、實以  
てあきれ果て申し候、今の官吏には、往々かゝる破  
廉耻漢之れあり、困難至極に御坐候、即ち拜借の金  
子は爲替にてさし上げ候間、御落手下されべく候、  
先は遅蒔ながら、御禮狀斯の如くに候、頓首、

用語解釋

歸國 かくこく ○送金 おくつた ○到着 ついた ○歸郷 へかへる

○詮方 せんかた ○平生 へいせい ○高誼 たかのつとめ ○旅費 たびひら ○無事歸  
村 むら 〇官吏 かんじ ○往々 しばしば ○破廉耻漢 へれんぢかん ○困難 こんなん  
至極 いたはる

○忠告して呉れし禮狀

野夫大酒のため、毎々失策仕り候も、敢へて改善す  
るの心なく、早既に知己朋友より愛想をつかされ居  
り候ところ、御懇切にもお見捨なく、懇々たる御忠  
告を給はり、頑冥なる野夫をして、遂に本善の性に  
立ちかへることを得せしめられ候段、眞に謝するに

言葉なきを知り申し候、野夫は向後は人間の仲間入りをすることを得、樂しき一生を送り得らるべし。愉快之れに過ぎず候、依つて茲に一書を呈して、御忠告のかたじけなきを感謝奉つり候、匆々謹言。

用語解釋

- 野夫やぶ 大酒たいしゆ 毎々失策まいまいしつさく 改善かいぜん
- 知己朋友ちぎとも 愛想あいさう 懇切こんせつ 懇々こんん 向後こうご 忠告ちゆうこ 頑冥くわんめい 本善の性ほんぜんのせい 向後こうご 一生いっせい 愉快うきわい 人間の仲間入りにんげんの仲間入り 感謝かんしゃ

謝絶門

此れも口上文である、決して長たらしく書くに及ばぬ、今の書生さん方は、短かくてよきものを長たらしく書き、長く書かれはならぬものを三行半ぐらゐに書く人がある、此れから人間の仲間入りをして、禮儀作法などいふやかましきものに従はればならぬから、前もつて注意するが肝要である、必用である。

○約束を断はる文

一旦約束いたし候ことを、相變じ候は、男子の面目に關し候へ共、如何せん昨夜來、數度の腹痛に襲撃せられ、身体疲勞して綿の如く、迎も御約束を履行

いたし難く候間、今日の大宮公園行は、違約仕り候に付、皆様方へ貴兄より、宜しく御傳へ下されたく候、先は右御断はりまで、病苦を侵して一筆斯の如くに候、匆々。

用語解釋

- 一旦 いちたん ○約束 やくそく
- 數度 たぐひ ○腹痛 ふくう ○襲撃 しゅうげき ○身体疲勞 しんたいひらう ○履行 りやう
- 違約 いやく ○貴兄 きけい ○病苦 びやく

○出席を断はる文

國許より祖父母上京いたし、今明兩日は、市内見物の案内を命ぜられ、近頃の迷惑之れに過ぎず候へ共

膝に睡り脊に負はれ候ことを思へば、心中のうれしさ禁じがたく、人間の快事之れに過ぎず存せられ候、依つて十年の昔に立ちかへり、祖父母に東京通を誇り申すべくと決心いたし候、右の事情にて、缺席は萬止むを得ず候間、悪からず御了承下され度候早々不備、

用語解釋

- 祖父母 そふぼ ○今明兩日 こんめいりゅうじつ ○市内見物 しやういけんぶつ
- 案内 あんない ○迷惑 めいわく ○心中 しんちゆう ○快事 くわいじ ○東京 とうきゆう
- 決心 けつしん ○事情 じじょう ○缺席 けつぎ ○了承 りやうじやう

○招きを辭する文

一年十度の良夜に候へば、拙夫も無論參會いたすべ  
き決心のころ、不幸にも昨夜來、祖母疾患にかゝ  
り、醫士を招ぐの、看護婦を呼ぶのと云ふ騒ぎにて  
今日も尙依然として昨夜のまゝに候へば、迎も貴命  
に應じて自己のたのしみに耽るべき場合に之れなく  
就いては高意に背くも遺憾に候へ共、悪からず御承  
引成し下され度、此の段おことわり申し上げ候、早  
々頓首、

用語解釋

- 良夜 らや
- 拙夫 せつぷ
- 無論 むろん
- 參會 さんかい

○不時の招きを辭する文

御來客の御望みにて、圍棋の御相手申し上げべき様  
折角の御依頼に候ところ、折りあしく愚父も判妻も  
不在にて、野生留守居いたし居り候ため、參上いた  
しがたく候間、悪からず御承引下されたく候、尤も  
兩人の内歸宅いたし候はゞ、參邸いたし候てもよろ  
しく候、草々、

- 決心 けつしん
- 不幸 ふこう
- 疾患 しつゝかん
- 依然 いぜん
- 貴命 きめい
- 自己 じこ
- 高意 かうい
- 遺憾 いかなん
- 承引 せういん

用語解釋

- 來客 らいきゃく
- 圍棋 ゐき
- 依頼 いらい
- 愚父 ぐふ
- 判妻 はんさい



妻つま ○不在いざない ○留守居留守居 ○承引承引 ○歸宅歸宅 ○參邸參邸

○花見誘引を斷はる文

荒川土堤の櫻花は、未だ見しこと之れなく候へば、是非一度は往觀いたし度存じ居り候ところへ、御誘引下され候ことゆる、早速御同伴仕るべき筈のところ、折りあしく母親儀、今朝來痼疾のため臥床いたし、中々起き出づべき様子見え申さず、心配仕り居り候へば、遺憾ながら今回は、御厚情に應じがたく候間、悪からず御承引下されたく候、先は御返事ま

で、勿々不一、

用語解釋

荒川土堤

せんせゆと申すは、河原の土堤のこと、しほはつしよよ

- 往觀わうくわん ○誘引ゆういん ○同伴どうはん ○今朝來けさあ ○痼疾こじつ
- 臥床ふしど ○心配しんぱい ○遺憾いかな ○今回こんかい ○厚情こうじやう ○承引せういん
- 返事へんじ

○海水浴に誘はれしを斷はる文

性來多病の小生のこと故、今年からは、推して海水浴に趣むき申すべき決心のところ、頼みつけの醫士の申し候には、海水に浴して、皮膚に劇變を與へ候よりは、山の奥の空氣の清淨なる所において、十分

に静養せられ候方、萬全の策なりと申し居り候へば、今年は信州輕井澤か、日光あたりにて三伏の苦熱を凌ぎ申すべき心底に候、左に候へば、不本意ながら海水浴行は、一時見合せ度候間、悪しからず御承引下され度候。匆々、

用語解釋

- 性來 (せいらい) ○多病 (たべう)
- 心 (しん) ○皮膚 (ひふ) ○劇變 (げきへん)
- 萬全 (ばんぜん) ○三伏 (さんぷく)
- 御承引 (ごせういん)
- 清淨 (せいじやう)
- 苦熱 (くねつ)
- 心底 (しんてい)
- 海水浴 (かいすいよく)
- 十分 (じゅうぶん)
- 静養 (せいやう)
- 決 (けつ)

○雪見に誘はれしを斷はる文

昨日來の雪は、塵芥の天地を變じて銀殿玉樓となし申し候、雪癖ある野生を御存じの大兄のこなればころぶ所まで雪見に出かけよこの御誘引は、實に其のころを待たご申すより外之れなく候、而るに天は野生の雪癖を増まれ候ものと見え、昨夜來例の疝癢大いに頭をもたげ、今朝は寸歩も歩むこと能はざる状態と相成り申し候、所へ御誘引の御尊翰に接し唯々長大息いたし候のみに候、何れ他日拜眉の上、雪景のありさま伺ひ上げ候ここにいたしたく候、先は御返書まで、雪を消し硯水にいたし、相認め申し

候、匆々、

用語解釋

- 疝癩
- 寸歩
- 状態
- 尊翰
- 長大息
- 塵芥
- 銀殿
- 玉樓
- 雪癖
- 拜眉
- 雪景
- 返書
- 天地

○ 茸狩に誘はれしを斷る文

一雨ごとに頭をもたげ候は、葦類に候、左れば今回の御催しは、實に時宜に適し居り申し候、小生も大賛成にて、すべての仕度いたし候所へ、横濱にまかり在り候母方の叔父、急病にかゝり候由報知之れあり、急行にて唯今出立いたし候所に御坐候、右の次

第にて、今度は迎も御同道いたしがたく候間、悪しからず御承引下され度候、先は右御断はりまで、勿々此の如くに候、

用語解釋

- 時宜
- 大賛成
- 急病
- 報知
- 急行
- 出立
- 同道
- 次第

○ 避暑に誘はれしを斷はる文

頃日の炎熱には、お互いに苦惱を叫ぶのみに候、避暑のため高尾山行は、近頃の妙計に御坐候、早速御隨行いたし候て、頭腦を冷し申し度は存じ候へ共、大至急を要する原稿の依頼を受け、謝絶いたし難き

事情も之れあり、避暑の方をば断念することに取り  
極め候間、悪からず思召し相成り度、尤も苦熱中  
あつての執筆は、如何に苦しく候や、御察し下され  
度候、頓首、

用語解釋

- 御隨行 ごずいかう ○頭腦 どうなう ○苦惱 くなう ○避暑 ひしょ ○妙計 めうけい
- 謝絶 しゃつたつ ○事情 じじやう ○断念 だんねん ○苦熱中 くねつちゆう ○原稿 げんかう ○依頼 いらい
- 炎熱 えんねつ ○大至急 たいしきゅう ○原稿 げんかう ○執筆 しつぴつ

○金談を受けしを断はる文

金子御入用につき、御間に合はすべき旨、御申込に  
候得共、目下折りあしく手許不如意にて、迎も御求

めに應じがたく候間、悪しからず、御了承下され度  
候、最も本月末に相成り候へば、何んとか都合相つ  
き申すべく候、先は御断りまで、勿々不一、

用語解釋

- 入用 ○目下 ○不如意 ○了承

本月末

○物品借入申込みを断る文

金屏風一雙、御來客のため御入用の由にて、御間に  
合はすべき旨仰せ越され候へ共、折あしく他よりの  
申し込みに任せ、四五日前貸し與へ候故、御氣の毒  
に候へ共、御断はり申し上げ候、尤も銀の方なれば

今一雙御座候へば、さし上げ候ても宜しく候、匆々、

用語解釋

一雙 ひとなまはにて ○御來客 ごらいかく ○銀の方 ぎんのかた

○書籍の借入申し込みを断はる文

武家名目妙御入用の由御申し越しに候へ共、該書は  
當時某文學博士の需めに應じ、其の方へ廻し置き候  
へば、返却次第さし上げ申すべく候間、左様御承知  
下され度候、匆々、

用語解釋

武家名目抄 ぶけなまめくせう ○御入用 ごによう

○該書 がしよ ○當時 たうじ ○返却次第 へんきゃくしだい ○左様御承知 さやうごせちち

○代理の依頼を断はる文

御病氣にて、外出なされがたき爲め、地方裁判所へ  
代理として出頭いたすべき旨、御依頼に候へ共、拙  
子ことも、實は過日來、痔疾のため外出仕りがたく  
今日も臥寝まかり在り候次第、右につき、迎も御依  
頼に應じかね候間、あしからず御承引下され度候、  
匆々、

用語解釋

外出 ぐわいしゆつ ○代理 だいに ○依頼 いらい ○拙子 せつし ○過 くわ

日來 ひつち ○痔疾 しじしつ ○臥寢 ふしん ○承引 せういん

○入社を断はる文

過日御來車の節、懇々御勸めに預かり候某會社へ入社の件、其後熟考仕り候に、如何に考へ見候ても、小生の性質には適し申さず候やうに思はれ候間、右は御断はり申し上げ候、悪しからず御承引下された候、匆々、

用語解釋

過日 ○來車 ○懇々 ○入社 ○性質 ○適 ○承引

○面會を謝絶する文

今朝書面をもつて面會御請求に相成り候へ共、唯今貴君に御面會申し候ては、一方の人々の心をあしく

謝罪門

此の文章も口上文である、されど物に由つては長たらしく書かればならぬ、是れ文の性質に因り、簡短にては明瞭に書くことが出来ぬ爲めである、其れから此の文章は、すべてに對して言葉づかひを丁寧にし、陳謝する主意を先方に充分納得せしむるやうにせればならぬ、決して無禮な言葉づかひをして、

用語解釋

面倒 ○人氣 ○判然 ○御面晤

し、事いよく面倒に相成り申すべく候間、御請求には應じかね候、最も一方の人氣さへ判然いたし候はゞ、何時にても御面晤仕つり申すべく候、頓首、

て怒りを招くやうなことをしてはならぬ。

○不沙汰を陳謝する文

御無沙汰も斯く意外に相成り候ては、陳謝するに言葉のなさを覚え申し候、殘暑耐へがたき目下、如何に起居遊はされ候や、數度の御芳書に接しながら、一回の御返事もさし上げず、多罪之れに過ぎず候、先は御不沙汰御詫まで、此の如くに御座候、勿々、再啓、小生は、相かはらず専念に勤學まかり在り候間、御安心下され度候、敬白。

用語解釋

不沙汰 かくるいふ ○意外 のほか ○陳謝 わげし ○殘暑 りのこ

○目下 目下 ○起居 たちよ ○數度 たびたび ○芳書 かんがひ ○一回 ひとたび ○多罪 つまらぬ ○専念 せんねん ○勤學 つとむる

○疎忽を謝する文

昨日は疎忽千萬にも、歸宅を急ぎ候あまり、駒下駄を取りちがえ候て、其の儘歸宅仕り候、今朝外出に際し、始めて相悟り候て、不覺に驚き申し候、何卒例の疎忽の故と、御海容下され度候、即ち使のものに持たせ、さし上げ候間、御受取り下され度候、先は疎忽御詫まで、勿々頓首。

用語解釋

疎忽 せうくつ ○歸宅 かいたく ○外出 ぐわいしゅつ ○不覺 ぶかく ○海 かい

容 する

○違約を謝する文

昨夜堅く御同行を約し置きながら、さし置きがたき急用出来いたし候ため、存しながら御違約致し候段何とも御申し譯之れなく、定めて信用のされぬ男と御思召され候ことと、赤面の至りに耐へず候、昨夜歸路に御立寄り申し候て、お詫申し上ぐる心底に候ところ、深更に相成り候ため、今朝御詫状さし上げ候次第、悪からず御承引下され度候、匆々、

用語解釋

御同行 御同行 急用 出来 違約

- 不信用
- 赤山
- 歸路
- 心底
- 深更
- 承引

○長座を謝する文

昨夜はあまり談話に身が入り過ぎ候て、意外なる長座仕り、實に御申譯之れなく候、御家族様方の御迷惑、嗚かしの恐縮の至りに耐へず候、何卒宜しく御鶴聲下され度、先は右御詫まで、匆々此の如くに候、

用語解釋

談話 意外 長座 御家族様

○恐縮 〇御鶴聲

○來訪せし人に謝する文



今朝めざく御來訪下され候趣き、折り悪しく不在にて、御用の事柄をも伺ひ申さず、御氣の毒千萬之れに過ぎず候、明日は、終日在宅まかり在り候間、左様御承知下され度候、不一、

用語解釋

御來訪

〇不在

〇終日

〇在宅

〇承知

〇會期を誤まるを謝する文

かねて御通知に接し、御受けまで致し置きながら、不注意にも失念仕り、遂に參會仕らず候段、何とも以つて御申譯之れなく、何卒貴兄より皆様方へ、よ

ろしく御傳へ下され度候、先は右御詫まで、叩頭萬謝、

用語解釋

御通知

〇不注意

〇失念

〇參會

〇叩頭萬謝

〇泥酔せしを謝する文

昨夜は參上意外なる御饗應に預り、萬謝奉つり候。餘り愉快に候まゝ、所謂牛飲馬食を極め、泥酔の極放歌亂舞、狂態百出、雅席を亂して狼藉の場と致し候由、唯今他より忠告を受け、實に驚き入り申し候何卒酒のため、本心を失ひ候ものご思召し下され、

御海容の程祈り奉つり候、何れ昇堂御詫いたし候へ共、取り敢へず書面をもつて、御詫言仕り置き候、謹言、

用語解釋

- 参上 まゐりあがり
- 意外 いざわい
- 御饗應 ごけいおう
- 萬謝 ばんしゃ
- 愉快 ゆきわい
- 牛飲馬食 ぎゅういんばしょく
- 泥醉 でいすい
- 放歌亂舞 はうからんぶ
- 狂態百出 けうたいひやくしゅつ
- 雅席 がせき
- 狼藉 らうせき
- 他 た
- 忠告 ちゆうこく
- 御海容 ごかいよう
- 昇堂 しやうだう
- 書面 しよめん

○送金の延引せしを謝する文

御地滞在中は、種々御配意に預かり、有りがたく

御禮仕り候、其の砌り御依頼相成り候、某氏より受け取り申すべき金員、度々督責致し候へ共、返濟いたし呉れず、爲めに御送金方延引相成り、實に御申し譯是れなく候、昨日に至り、やうく入手いたし候間、幸便に任せ、持参致させ申し候、御落掌下され度候、先は延引御詫かたぐ、金子御送附まで、勿々斯の如くに候、頓首、

用語解釋

- 滞在中 たいていしちゆう
- 御配意 ごはいい
- 金員 きんいん
- 督責 とくせき
- 返濟 へんさい
- 御送金 ごそうきん
- 延引 えんいん
- 入手 にゅうしゆ
- 幸 さい
- 持参 ちさん
- 落掌 らくせう
- 送附 そうぷ
- 勿々 むつむつ

○報告延引を謝する文

電報にて御依頼の、今回の騒擾始末、早速取り調べ候て、差し上げ申すべき筈の處、真相は深く隠蔽いたし候て、如何に探查を遂げ候も、今に判明せざるこそ之れあり、遂延引いたし候次第、併し右は追て報告いたし候ことに致し、先づ分明仕り候事實丈、御報告申し上げ候、あまり等閑にいたし候様に思はれ候へ共、決してなまけたる次第に是れなく候間、悪しからず御承引下され度候、先は報告延引御詫まで、恐々頓首、

用語解釋

- 電報 電報
- 依頼 依頼
- 今回 今回
- 騒擾 騒擾
- 判 判
- 早速 早速
- 真相 真相
- 隠蔽 隠蔽
- 探查 探查
- 延引 延引
- 報告 報告
- 分明 分明
- 事實 事實
- 等閑 等閑
- 承引 承引

○借用品を毀損せしを謝する文

御大切の御品長々拜借まかり有り候ところ、何時鼠に食まれ候や、少々破損の個處相見え、何とも以て御申し譯之れなく、平に御容捨下され度候、最も塗師に命じ、修繕いたさせ候へ共、痕跡は残り居り申し候、先は右御詫まで、草々頓首、

用語解釋

○修繕 ○痕跡 ○塗師

拜借

○少々破損

○個所

○御容捨

忠告門

此の門に屬する文章は、手紙の文中の尤も作りがたきものである。何故となれば、忠告して人に怨まれるやうなことをあればなりじや、畢竟言葉の足れぬときや、誠意の足れぬときは、人を感動させることが出来ぬからである。且つ此の種の文章は、文の長短などは決して論ぜぬ、唯言盡し辭つくせばよいのである。併し敬と云ふ文字を忘れてはならぬ。

○怠惰の友を戒しむる文

貴兄の出校せられざるは、何の爲めに候や、聞けば

貴兄は家に在つても勤學することなく、外に在れば遊惰を事とせられ、我々小心翼翼勤勉を事とするものゝ、目より見るときは、實に學生にあるまじき素行なりこの説に候、貴兄は常に學術を以つて世に立たんとすと明言せられながら、今日の此の行ひは何んたるここに候や、同窓の友たる我輩は、實に悲憤まかり在り候次第に候、何卒向後御改心あつて、一意學術に御勤勵遊ばされ候やう致し度、是れ不肖なる此の身を忘れて、茲に御忠告いたし候次第に候、若し御採用下され候へば、満足之れに過ぎず候、謹

言

用語解釋

- 貴兄 きけい
- 出校 しゅつがう
- 勸學 きんがく
- 遊惰 ゆうだ
- 小心翼々 せうしんよくよく
- 勤勉 きんべん
- 素行 そかう
- 學術 がくじゆつ
- 明言 めいげん
- 同窓の友 どうそうのとも
- 悲憤 ひふん
- 同後 どうご
- 忠告 ちゆうこ
- 御改心 ごかいしん
- 一意 いいつ
- 勤勵 きんれい
- 不肖 ふせう
- 採用 さいよう
- 満足 まんぞく

○飲酒を戒むる文

酒を飲むものは、百薬の長など、褒め立て候へ共、  
 醫家の方より申し候へば、實に百毒の長に之れある  
 由に候、貴兄は平生の聰明にも似ず、朝から晩まで

酒ひたりこは、如何なる御心底に候や、古より酒の  
 ために身を害し、事を誤り候もの、實に少からざる  
 ことに候、貴兄の如く、大事に志し居られ候人は、  
 決して耽るべからざるものに候、何卒卑近なる言葉  
 には候へ共、御嘉納下され候て、御禁酒下され候へ  
 ば、實に本懐の至りに候、頓首、

用語解釋

- 百薬の長 ひやくやくのちやう
- 百毒の長 ひやくどくのちやう
- 平生の聰
- 御心底 ごしんてい
- 大事 だいじ
- 卑近 ひじん
- 御嘉納 ごかのう
- 禁酒 きんしゆ
- 本懐 ほんくわい

○女色に耽る人を戒しむる文

遊女ぐらゐる虚言を云ふものは之れなく候、若し彼等の虚言を眞實と思ひ、深入り致し候ては、家を破り身を滅すに至るものに候、大兄は愛らしきお兒様もあれば、賢良なる御内方のあらせらるゝにも係らず賣女の如きいやしきものに愛情を移され候は、如何なる御心底に候や、承はり候へば、既に親族會議を開かれて、禁治産の議決を致し候由、若し此の儘にして改心せられずんば、如何なる不名譽を招がれ候やも計がたく候間、篤ご前後の事實を御熟考あそばされ候て、斷然たる御處置に出でられ候方、然るへ

きことかご存じ候、何人が申し上げ候ても、御聞納なしと傳聞いたし候まゝ、不肖なる身を忘れて、茲に此の御忠告を呈することにいたし候、何卒御採用下され候て、彼親戚のもの共をして、啞然たらしめ候様成し下され度、茲に苦言を呈して御熟考を乞ふ次第に候、勿々頓首、

用語解釋

- 遊女 あそびめ 〇遊女 あそびめ 遊女 あそびめ 遊女 あそびめ
- 方 かた 〇賣女 ばいぢよ 賣女 ばいぢよ 賣女 ばいぢよ 賣女 ばいぢよ
- 〇禁治産 きんぢさん 禁治産 きんぢさん 禁治産 きんぢさん 禁治産 きんぢさん
- 〇愛情 あいせう 愛情 あいせう 愛情 あいせう 愛情 あいせう
- 〇議決 ぎけつ 議決 ぎけつ 議決 ぎけつ 議決 ぎけつ
- 〇改心 かいしん 改心 かいしん 改心 かいしん 改心 かいしん
- 〇親族會議 しんぞくかいぎ 親族會議 しんぞくかいぎ 親族會議 しんぞくかいぎ 親族會議 しんぞくかいぎ
- 〇不名譽 ふめいよ 不名譽 ふめいよ 不名譽 ふめいよ 不名譽 ふめいよ
- 〇前後の事實 ぜんごのじじつ 前後の事實 ぜんごのじじつ 前後の事實 ぜんごのじじつ 前後の事實 ぜんごのじじつ
- 〇熟考 じゆくかう 熟考 じゆくかう 熟考 じゆくかう 熟考 じゆくかう
- 〇斷然 だんぜん 斷然 だんぜん 斷然 だんぜん 斷然 だんぜん

處置しちぢ 傳聞でんぶん 採用さいよう 親戚しんせき 苦言くげん 呈てい

○浮薄な人を諫むる文

他人になさけを掛けるは、如何にも入らぬやうなものに候へ共、昔からなさは人の爲めならず申し候へば、いつかは廻り來ることのあるものに候、人を見たら盜賊と思へといふ諺も之れあり候へ共、是れは一方に偏した見解に御坐候、若し人間にしてなされよ云ふもの之れなく候は、少しも禽獸と撰ぶ處のなきものに候、小生は貴下と、同じ郷里に生れ

同じ學校に學び、同じ役所に奉職いたし居りし縁故に由り、貴下の惡評を聞くに忍びず、茲に苦言を呈して御三省を乞ふ所以に候、仰ぎ願くは世間の批評におかへりみあつて、卑見を御聞入れ下され候へば素懷の至りに御坐候、謹言、

用語解釋

- 他人たにん 偏へん 見解けんかい 禽獸きんじゆう 貴下きか
- 郷里きやうり 奉職ほうしやく 縁故えんこ 惡評あくへう 苦言くげん
- 三省さんせい 批評ひひやう 卑見ひけん 素懷そくわい

○不待遇を忠告する文

商業をさかんにするも、店員の力に候、之れを衰微

さするも店員の力に候、故に商業を盛大にせんことす  
るものは、家族よりも店員の方を大切にいたし申し  
候、小生しばく参店するに、常に不平を耳にする  
は店員の口からに候、併して其の云ふところは、待  
遇法のよろしからざる一点に候、殊に或る婦人の言  
を重用して、店員を薄待する一事に之れあり候、貴  
君は常に意を内外に用ゐて、注意周到なりとの評あ  
るにも係はらず、かゝる批難を招かれ候は何事ぞや  
家族は國民に同じく、店員は兵士と同一に候、如何  
に國民は躍起となり候とて、戦争するものは店員に

候へば、充分なる待遇をなして以て、不平を抱かし  
めぬやうにするは、貴家向後の勤務に候、然らざれ  
ば不測の災の店内より起り申すべく候、因つて茲に  
憎まれ役となり、苦言を呈する次第に候、稽首、

用語解釋

- 家族
- 重用
- 批難
- 待遇
- 苦言
- 参店
- 薄待
- 躍起
- 向後
- 稽首
- 不平等
- 内外
- 注意
- 充分
- 店內
- 不測
- 勤務
- 戦争
- 衰微
- 盛大



○不攝生を戒むる文

病のある体にて、能く養生の道を守れば、必らず長命するここを得るものに候、況して身体の強壯なる人が、よく養生の法を守り候はゞ、百年の長壽を保ち得候は、無論のこと候、雅兄は實に強壯なる身体を有せらるゝ人に候、雅兄の如き人にしてよく養生の法を守らるれば、彭祖たることも得、武内宿禰たることをも得られ候、併るに雅兄は何故か、甚たしく不養生なされ候由、是れ小生の雅兄の爲めに大いに恐るゝ處に候、願はくは御兒さま方の爲めに

前途を思はれ、爾後不養生をば、堅く禁止せられ候様いたし度、茲に盡言を呈して御注意を乞ふここにいたし候、頓首

用語解釋

- 養生 やうじやう
- 長命 ちやうめい
- 身体 しんたい
- 強壯 きやうさう
- 無論 むろん
- 雅兄 がけい
- 彭祖 ほうそ
- 不養生 ふじやうじやう
- 前途 ぜんと
- 爾後 にちご
- 禁止 きんし
- 盡言 じんげん
- 御注意 ごちゆうい

○人の久しく歸省せざるを諫むる文

足下は何故に久しく御歸省なされざるや、父母の子を思ふ情合ごいふものは、子の父母を思ふやうに、淡泊なるものに之れなく候、されば人の子たる足下



れ候や、先づく以後を戒められ候て、萬全の策  
を取られ候様致したく、茲に愚見を呈して御忠告申  
し上ぐる次第に候、匆々頓首

用語解釋

- 愚見 ちかまきはかり
- 愚見 ちかまきはかり
- 忠告 ちゆうこく
- 投資家 とうしきか
- 資産家 しさんか
- 祖先 そぜん
- 對し たいし
- 以後 いご
- 萬全の策 ばんぜんのかく
- 成功 せいこう
- 名稱 めいしやう
- 成算 せいさん
- 危險 きけん
- 蓄積 ちくせき
- 成算 せいさん

用語解釋 實用新用文 終

明治三十八年十二月五日印刷

明治三十八年十二月五日發行

(實用新用文)

正價金十八錢

著作  
所有

著者 河村 定 靜

發行者 岩崎 鐵次 郎

印刷者 木村 榮 吉

印刷所 文英社

東京市京橋區采女町九番地

發兌元

東京市京橋區采女町九番地  
電話本局三〇六七番

大學館

河村定靜先生著

口 日用手紙用文

價十八錢 郵稅四錢

本書は手紙に就て百般の要項を網羅し盡す。祝賀。見舞。忠告。催設。謝罪。照會。吊祭。祝辭慰問。感謝。壽品。誘引。報知。依頼。貸借の十數門に分ちて各數十種を網羅し上欄には手紙を書く時の心得。書簡類語願届書式。俗文用語(春夏秋冬)各數十種を網羅す。

河村定靜先生著

口 言文一致日用文範

價十五錢 郵稅四錢

本は凡て日用文として必要なる百般の文題を祝賀。慰問。忠告。謝罪。見舞。等の十數門に分ち總て實用的を旨として趣味ある言文一致体を以て書き綴られたるもの實に廿世紀日用文の好模範なり。

寒川鼠骨先生著

(六版)

口 言文一致手紙文

價十八錢 郵稅四錢

親族間の手紙十八篇。友人間の手紙廿四篇。普通交際間の手紙廿一篇。葉書の書き方。親しき間柄の例三十篇。普通の間柄廿二篇。四季贈答の部は十四篇。夏は八篇。秋は七篇。冬七篇。の作例を載す職業。境遇。年記の諸點を踏みて實地應用を旨とせり。

寒川鼠骨君著

口 言文一致記事論說

價二十錢 郵稅四錢

記事門 春の部十二題。夏の部十三題。秋の部八題。冬部の八題。雜の部六題 論說門 三十二題 傳記門 十五題 祝祭門 八題 序跋門 四題 祭吊門 三題 文體は輕妙滑脫鼠骨氏最も苦の作に係るもの本書を繙かば筆意自在の妙を得ん。

文學士小森鶴峯先生序

池田錦水先生著 (再版)

口 記傳 中等作文資料

價二十錢 郵稅四錢

本書は、記傳、論說、序跋、祝祭、題、辭、評、議書、の綱目に大別し細目は之を三百餘に分ち苟くも作文の資料に供し得べき語句は長短難易を論ぜず抜粹して各門に收め語句は盡く傍訓を施し難句は解釋を加へ、文章の種類を説明せる用意周到の作文資料書なり。

文學士沼波瓊音先生序

池田錦水先生著 (四版)

口 活用 手紙文資料

價十八錢 郵稅四錢

本書は四季贈答、日用贈答、慶賀吊祭、數百題を載けて、各々幾百の類語を抜粹して音訓を施し、應用自在の便を計りたる實用的の珍書なり、學生、家庭、商家必要の書なり。

山田豐先生著

(參版)

口 圖解 雄辯演說自在

價廿五錢 郵稅四錢

第一篇演說の心得 婉曲、感情、首尾統一、喝采を得る法、言語の明晰攻撃的演說の口調演說上達の手段、演說學、剛柔、前置詞、後置詞、進級法、聽衆者感情惹起法、地方へ出し時の心得、等數十要件第二編練習は數十題を設けて演說用語各々數百を網羅し具つ應用問題を擧げて練習に便ならしむ。

駿臺隱士著

(參版)

口 雄辯術談話法

正價廿錢 郵稅八錢

辯舌の必要、修養、種類、辯意、勢力、雄辯法の沿革、心身智徳の養成、音調の練習、論理の要領、修辭要領、辭格、法、演說の効益種類、組織、思想の組織、議論の順序、草稿の調製、辯士の資格、言語及音聲、及身振、辯士の心得、壇上心得、討論の利益、心得、議論の體、談話の儀、感化、談話の種類、茶話、議論、講話、面接法、訪問法、應對法、附録、古今大家の演說



文學士小森鶴峰先生序 池田錦水先生著

●**中等作文資料**

價二十錢 郵稅四錢

文學士沼波瑠音先生序 池田錦水先生著

●**活用手紙文資料**

價十八錢 郵稅四錢

宮崎來成

●**作文獨習自在**

價二十錢 郵稅四錢

寒川鼠骨先生著

●**言文一致手紙文**

價十八錢 郵稅四錢

寒川鼠骨君著

●**言文一致記事論說**

價二十錢 郵稅四錢

河村定靜先生著

●**軍人祝辭吊祭慰問文範**

價廿五錢 郵稅六錢

河村定靜先生著

●**軍人祝辭慰問感謝文**

價三十錢 郵稅六錢

河村定靜先生著

●**軍人祝辭慰問感謝文**

價十八錢 郵稅四錢

河村定靜先生著

●**軍人手紙用文**

價十五錢 郵稅四錢

河村定靜先生著 ●**用語實用新用文** 價十八錢 郵稅四錢

河村定靜先生著 ●**言文一致日用文範** 價十五錢 郵稅四錢

文學士栗田水岡君序 渡邊幾石君著

●**美文辭麗句** 價十五錢 郵稅四錢

柳川春葉先生序 三津木青煙、井口紫濤兩君共著

●**美文辭麗句** 價十八錢 郵稅四錢

河村定靜先生著 ●**美文辭資料** 價十八錢 郵稅四錢

侯爵西園寺公望君題辭 岡鹿門先生序

●**美文辭類纂** 價三十錢 郵稅四錢

河村定靜先生著 ●**熟語成句詳解** 價廿五錢 郵稅四錢

河村定靜先生著 ●**熟語故事辭典** 價十八錢 郵稅四錢

河村定靜先生著 ●**形容熟語詳解** 價十八錢 郵稅四錢

河村定靜先生著 ●**速成雄辯演說法** 價三十錢 郵稅四錢

河村定靜先生著 ●**最新演說典範** 價三十錢 郵稅四錢





用語  
解釋  
實用新用文

東京大學館發行

河村定静先生 著

253  
31

080078-000-9

特62-355

實用新用文

河村 定静 / 著

M38

DAC-4210

